



エキュメニズム委員会

ペンテコステ・ヴィジル



6月4日(日)、コロナウイルスの大流行で2年間中止してきた「ペンテコステ・ヴィジル(聖霊降臨前夜祭)」の祈りを今年に入って行うことができました。会場は茶屋町の日本聖公会大阪聖パウロ教会。約45人が参加した。(写真:左から井上隆晶 牧師、池田大地 牧師、内田望 司祭、フリオ・トレス神父、大柴讓治 牧師、筆者のロッコ・ビビアーノ神父)

「ペンテコステ・ヴィジル」は日本聖公会、日本福音ルーテル教会、日本基督教団、カトリック教会の4教派の代表で構成される合同委員会が毎年大阪で主催している祈りの集い。異なるキリスト教派の聖職者や信徒が集まり、聖霊の導きとキリスト教一致の恵みを祈り求めるこの集いは、今回で14回目を迎えた。

この聖霊降臨前夜祭の礼拝は、洗礼を通してキリストと結ばれたすべての人に与えられている聖霊によって、異なる教派の信者が一つになることを体験できる非常に重要な行事。また、主イエスが教会に命じたことに従い、キリスト者が社会の中でキリストへの信仰をあかしする場でもある。

長い間中止していたため、今回の集いは特に喜びの雰囲気にも包まれた。コロナウイルスの感染症が完全に治まり、来年も多くの兄弟姉妹と共にまたペンテコステ・ヴィジルを行うことができるように願っている。

「道端の異邦人」という副題の第2章は、「よきサマリア人」のたとえ話(ルカ10・25〜37)の説明です。

わたしたちは愛においてのみたどり着くことのできる充滿のために造られた

酒井俊弘補佐司教



JLMM 活動報告 カンボジア教会の日

毎年8月第一日曜日は、教区の「カンボジア教会の日」。この日の献金はカンボジアの教会や現地の社会活動の支援に充てられる。8月7日(日)15時、スクラフファミリアで一般社団法人「JLMM(旧・日本カトリック信徒宣教師会)」による活動報告会が開かれた。

大阪教区にはこれまでカンボジアの神学校や「カトリック青年ラジオ局」などととも、JLMMが現地で運営する支援活動に2009年度から過去13年

JLMMが行っている子どもたちの識字教育、給食、託児所、仕事づくりなどの活動について、事務局長の漆原(筆者)が報告。

また、昨今のコロナ禍に対応し、生活に困窮している185家族に向けて、米や魚の缶詰などをバックにして毎月配布する食糧支援や、現地とオンラインでつながって交流するバーチャル・スタディツアーの活動についても紹介した。



教区青年スタディ・ツアーの写真をしながら

「同郷のよしみ」と言うように、同じ国や地域出身者同士は、同じ文化や歴史の中で育ったのですから、付き合いやすいのは当然です。それが悪いわけではなく、理由もなく違うところの出身者を排除することは、キリスト教の心ではありません。イエスは例外なくすべての人の救いのために世に來られたのです。自分と肌が合わない人たちをも愛するという挑戦です。

もう一人のよいサマリア人になる好機

さあ、もう一人のサマリア人になりましょう!